

会報十二月号 来年の干支く庚子(かのえね)

目次

- ・干支(えと)について
- ・二〇一八年からの流れ
- ・二〇二〇年は庚子(かのえね)く庚は更新、子は増える
- ・庚子の年の出来事
- ・来年の予測 まとめ

●干支(えと)について

毎年恒例となりました。来年はどんな年になるのか。まず、「干支」について確認。
「干支(えと)」：「干」は幹であり、「支」は枝葉。生命の始まりから成長↓成熟↓衰退↓含蓄への過程を、干は十段階、支は十二段階に説明して六十種類に組み合わせたもの。世の中の出来事やエネルギーの推移や変化を、「干」の十段階のリズムと「支」の十二段階のリズムで示したものであり、それぞれの最小公倍数六十でもとに戻るという一連のリズムの「循環」でもある。

年にしたら六十年目に暦が還る。還暦。月とすれば六十ヶ月、五年。日ならば六十日、二ヶ月。時間なら六十分、一時間で循環する。

「干」は甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)・戊(ぼ)・己(き)・庚(こう)・辛(しん)・壬(じん)・癸(き)の十種類。

「支」は子(ね)・丑(うし)・寅(とら)・卯(う)・辰(たつ)・巳(み)・午(うま)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)の十二種類。

干支は幹と枝葉の関係なので干の方が大切。そこで干支(えと)は兄弟(えと)とも呼ばれる。そして自然や人間の営みや作用である「五行」とも結びついた。五行とは「木・火・土・金・水」の五つ。干に五行が結びつき兄弟(えと)に分かれて木・火・土・金・水が配されます。

十干の最初の「甲」は木の兄(きのえ)、次の「乙」は木の弟(きのと)、「丙」は火の兄(ひのえ)、「丁」は火の弟(ひのと)、「戊」は土の兄(つちのえ)、

「己」は土の弟(つちのと)、「庚」は金の兄(かのえ)、「辛」は金の弟(かのと)、「壬」は水の兄(みずのえ)、「癸」は水の弟(みずのと)となる。

この十干に十二支を組合せた最小公倍数が六十だから、甲子(きのえね)から癸亥(みずのとい)の六十年で一巡し、翌年また甲子(きのえね)に還る。それを還暦、本卦還りと呼ぶ。

前述したように、干支は生命や活動の発生↓成長↓収蔵の種類やエネルギーの推移を時代に当てはめて解説したもので、個人の日常生活の細かいことには適用するものではないが、社会・時勢の推移に適用することで時運の流れが分かってくる。その上で、人は自ら信じる誠を尽くせばよい。しかし、元来迷いやすい人間は、情報が氾濫し続けている世の中においては、何か真実の一筋を通していく原理を心に持つことも良いこと。その一つがこの干支。

●二〇一八年からの流れ

二〇一八年の「戊戌」は、どちらの文字も茂(しげる)であり、それは繁茂による紛糾とその後の衰退を意味する。従って、よく剪定(省く・断捨離)して賦活しなければならぬ。思い切った変革が必要となる。

二〇一九年の「己亥」は、繁茂の後を受けて、紛糾にケジメをつけて物事の筋を通し、自分の力を外に発揮していく年。

そして二〇二〇年、「庚」は「更(あらたまる)」に通じ、更新・継ぐ・償うという意味である。二〇一九年を継続して、その失(沈滞や怠慢)を償い、諸事更新して、澆刺とした状態に持っていくべきことを示す。これを怠ると破壊という大きな痛みを伴う革命が必要になる。

「子」は「ふえる、のびる」。「滋」と同義。新しい生命力の創造。

●来年、二〇二〇年は庚子(かのえね)。

干支の干は幹、支は枝であって、生命の創造や造化の過程を表すものである。その点からみても。

「庚」は更に通じ、三つの意味がある。第一は「継承・継続」。第二は「償う」。第三は「更新」。つまり庚は、前年からのものを断絶することなく継承して、その失(沈滞や怠慢)を償うとともに、思い切った更新していかねばならない、ということである。過去を断絶させて新たなものにしていくとする「革命」に向かわせるのではなく、過去を継承しながら自らをより強くして新たなものにしていくという「進化」へと持っていく。これが庚の意味。

これに対して、「子」の方は、「ふえる・蔓延る」という意味で、「滋」と同じ意味である。この滋に子をつけると「孳」。人間が家に住むようになると、色々なものが増えるようになるが、一番増えるのは繁殖力の強いネズミ。先日の豪雨の後、ボラン

ティアに行った先でまず見たのもネズミだった。ともあれ、干支が民衆化するにしたがって、「子」はネズミになった。起爆性を表す「亥」を、イノシシに当てたのと同じ。

●庚子の年の出来事

一九六〇年

一月 カメルーンがフランスから独立

ジョン・F・ケネディが大統領選に出馬表明（大統領期間 一九六一〜六三）

沖縄資料センター設立

日米相互協力及び安全保障条約（新安保条約）調印

二月 フランスがサハラ砂漠で初の原爆実験。第四の核保有国となる。

三月 映画「ベン・ハー」日本公開（日本映画史上初の天覧上映）

四月 東京スポーツ創刊

韓国で四月革命開始 李承晩大統領辞任

五月 創価学会の第三代会長に池田大作が就任

チリ地震発生

六月 マダガスカルがフランスより独立

コンゴ共和国がベルギーより独立

七月 岸内閣総辞職 第一次池田内閣成立

八月 ローマオリンピック開催

日本初のインスタントコーヒー発売（森永製菓）

九月 石油輸出国機構（OPEC）結成

一二月 池田首相、所得倍増計画を発表

一九〇〇年

一月 凸版印刷創業

三月 未成年者喫煙禁止法公布

四月 パリ万国博覧会開催

五月 パリ五輪（第二回夏季オリンピック）開催

六月 義和団の乱（清が日本など八か国に宣戦布告）

七月 イタリア国王ウンベルト一世暗殺

パリの地下鉄開通

八月 小学校令全面改正（義務教育の授業料無料）

九月 女子英学塾（津田塾大学）開校

十月 フロイトの「夢判断」出版

第四次伊藤内閣成立

一八四〇年

五月 世界初の郵便切手ペニー・ブラック発売（イギリス）

九月 アヘン戦争

ダゲレオ・タイプ（銀板写真）がヨーロッパを中心に普及

二二〇年

卑弥呼の公孫氏外交

一〇〇年

中国最古の辞典「説文解字」完成

歴史的に見てみると、来年の庚子にいかに対処していくべきか、という答えは自ずと出てくる。

それは、政財界・教育・文化・芸能・スポーツ：各業界がどれだけ「庚（更新）」する人たちが「子（増える）」かである。継承し、償い、更新していくというのは、本当に大変なことでもある。既得権を手放せない、惰性から抜けられない者も多くいる。自省してこれを更新していこうとする善人は、遠慮がちで引っ込み思案になりがちである。逆に、私利私欲ばかりのつまらない者や、時局便乗の野心家がネズミのように発生して、いろいろな害悪を引き起こすことになりやすい。

そこで、善人はよほど勇氣を出して、つまらない連中に負けないように取り組まないといけない。退廢的、虚無的、批判的な雰囲気醸し出しやすい繊細な社会では、なかなか容易ではないとしても、庚々として庚子していかなければならない。このような社会を救っていくには、「強き者たちが正しく（一に止まる。一〓道理）なるか、正しい者たちが強くなるかしかない」。

これをもし怠れば、日本は世界はネズミに荒らされることになる。すると進化ではなく革命という荒療治によらないと復活できなくなるという流れになる。それは避けたい。

●まとめ

生成化育や進歩発展とは、「戦い」という側面を持つ。幸福になることが人間の義務なら、戦うことも義務となる。過去との連続を切らぬように自らを振り返り、改めべきところは改め、「日々新たなり」と自らを更新していく。自己の実現・自他の共栄へと道を延ばしていきたい。

今月も、健康と健闘を！